昭和５１年度第１回シグマ委員会幹事会議事録

日　時　昭和５１年８月２４日（火）　１３：００～１７：００

場　所　日本原子力研究所東海研究所　研２棟　２２２号室

出席者　塚田（主査，原研）

百田（東北大），久武（東工大），中嶋（法政大），飯島（NAIG），

松延（住友），大竹（動燃），田中，更田，五十嵐（原研）

欠席者　桂木（原研）

配布資料

1. 前回議事録
2. Possible Specialists' Meeting on Capture Cross Sections (from H. E. Jackson, August 11, 1976)
3. 委員会専門部会，ワーキンググループ会合開催および旅費使用状況資料
4. Fission Product Decay Data (Memo. from R. Richmond 21 June 1976)
5. INIS Technical Note No. 22 (21May 1976), Nuclear Data Tagging in INIS (H. D. Lemmel) 等。
6. IAEA 2nd Advisory Group Meeting on FPND に関する手紙 (from J. J. Schmidt, 6 August 1976)
7. 超アクチニウム同位元素核データの評価に関して
   IAEAと研究協定を結ぶ可能性について
   （1976－4－21付資料）および
   関係の手紙（from A. Lorenz, 5 April 1976）
   同（from R. Lessler, 17 August 1976）

議　事

1. NEANDC第１９回会合（１９７６年９月２０日～２４日，ストックホルム）この会合に塚田主査が出席するにあたり，前回会合の説明があって後，今回の会合への準備に関して簡単な討議があった。今回の Topical

Discussion の題目は Integral and differential afterheat measurements で原研の田村・松本両委員が実験計画についてのレポートを用意している。

Possible Specialists'meeting on Capture Cross Sections に関しては，核融合炉で（n，p），（n，α）などによる放射化が問題となっているなどの指摘があった。

2. シグマ委員会組織の検討

この日の午前中（8月24日　9:00〜13:00）に行われた委員会組織検討特別小委員会（メンバー：久武，中嶋，木村（以上大学関係），飯島(俊)大竹，立花（以上民間関係），原田，五十嵐，更田（以上原研））第1回会合（木村，原田両委員欠席）における討議の概要が報告された。この会合では，1)シグマ委員会の長期的展望，2)本委員会の在り方・構成・専門部会との関係，3)核データセンターの運営委員会，4)非中性子核データ，5)ワーキンググループの数，6)旅費の予算が苦しいこと，などを最初に討議項目の素材として挙げて審議が行われたが，系統的な案を作成するところまでは議論がつめられていない。具体案としては，各ワーキンググループに life を明確に assign すべきであることに意見の一致をみた。特別小委員会会合の議事録を幹事に配布することが確認された。

3. An international comparison of the benchmark tests

NEACRP-A-272 "Specifications for an international comparison calculation of a large sodium-cooled fast breeder reactor" にもとずくベンチマークテスト（期限1977年3月17日）への参加に関して，原研および積分評価ワーキンググループでの検討が簡単に報告され，JENDL-1 を用いる場合にはそれが未だ公開前であることを作業形態としても考慮に入れるべきことが指摘された。

4. A statement on fission product decay data to NEACRP

田坂委員が関係者に連絡をとって作成している。

5. 遮蔽定数ワーキンググループと遮蔽研究室の動燃受託

報告書作成時の問題などについて関係者間で調整の必要があるようである。

6. ５２年度概算要求

簡単な現状報告のみで特に議論はなかった。

7. ＩＮＩＳと核データ

資料が配布されたが，技術的に討議する準備も時間も無かった。

8. 核データ小委員会

７月２７日（火）１３時より東大計算センターで行われた会合（メンバー：田中(一)(北大)，池上（阪大），大沼（東工大），長谷川(東大)，更田（原研）；オブザーバー：久武（東工大），田村（原研））の報告が更田委員よりあった。この会合では，更田委員より原研原子核データ室が６月１日付で発足したこと及び活動の現状説明；久武委員より核燃料計量専門部会の活動の説明；田中(一)氏より特定研究「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」に関する説明；大沼氏よりＩＡＥＡの２nd Consultants' Meeting on Charged Particle Nuclear Data (CPND) Compilation, ４月２８～３０日ウィーンの報告；田村委員よりＩＡＥＡ Advisory Group Meeting on Nuclear Structure and Decay Data (NSDD) for Applications，５月３～７日ウィーンの報告；などがあった。またNSDDのbibliographyに関する国際協力については原研が受皿をやれることや，ＩＮＩＳの利用等について田村委員より説明があり，これらの国際協力は永続性を含め慎重に考慮すべきことが指摘され，次回には実行のたたき台を出して議論することになった。長谷川氏より物理学会秋の分科会（福井大）で１０月２日に原子核実験・理論合同シンポジウム：主題「原子核データ収集及び検索システム」を行う企画について相談があり，田中(一)氏，大沼氏，更田委員が講演者に決った。（以上更田委員の報告）核データ小委員会会合に関連して mass chain evaluation の国際分担には日本も是非加わるべきであるとの指摘が久武委員よりあった。

9. 原子力学会分科会（原研）インフォーマル・ミーティング

10月4日17:00〜19:00に核データの測定・評価・利用者のインフォーマル・ミーティングを行う企画について説明があり了承された。

10. CCDNおよびCPL Committees

7月7〜8日パリで行われた第15回会合について百田，更田両委員より簡単な報告があった。また百田委員よりCCDN Committee に出席の機会を利用してNEANDCとINDCに大学関係からも人を出したいことを打診したところ，正式のメンバーをふやすことは抵抗が大きいようである。INDCにオブザーバーを送ることについては何カ月か前にchairman に手紙を出し通常のofficial steps をとればよく問題がないとの報告があった。

11. IAEA 2ed Advisory Group Meeting on FPND

1977年9月に行われるこの会合に，"Status of theoretical prediction of neutron reaction cross sectionsof fission products" という題名のレビューを行う人を日本から推薦してほしいとの依頼状がJ.J.Schmidt氏（NDS）より更田委員に来ていることが報告された。Schmidt氏の手紙には五十嵐委員が候補にあがっているが，事務局としては飯島委員（NAIG）を推薦したいむね提案があり，これに対し，飯島委員より五十嵐委員とも相談の上決心したいむねの発言があり了承された。（この件は後に飯島委員より回答があり，同氏をSchmidt氏に推薦ずみである）

12. JENDL−1検討会

旅費予算がきびしいので比較的小数の関係者間の検討会を年度の終り近くに計画しているむね事務局より報告があった。

13. 人　事

原研物理部事務長が矢野氏より新妻氏に異動したのでシグマ研究委員会委員としても同様の交代をしたいむね事務局より提案があり了承された。

14. TNDの評価についてのIAEAとのResearch Agreement

NDSの企画で，TND (Transactinium Isotope Nuclear Data)の評価をいくつかの国の研究グループが分担する計画があり，この一環として原研とIAEAとの間でResearch Agreements を結ぶ可能性が高いことが資料と共に説明された。

15. 原子分子データ

51年7月1日付で原研東海研内に所内職員のみで構成した原子分子データ委員会が発足したこと，同日付で中井主任研究員が大阪研より物理部に異動したこと，および関連事項について塚田主査より説明があった。

中性子核データ関係が影響をうけないか，原子核データ室が関与すれば自然シグマ委員会とも関係する，などの発言があった。これに対し，影響が全く無いというわけにはゆかないが，専門的には原子分子データ活動は核データとは別の新たなマンパワーでやってゆく考えであることが事務局より説明された。

16. その他

Neutron Cross Sections，Vol. II. Curves，BNL－325 Third Ed，(1976)およびCINDA 76/77 について紹介があった。